人は、夫が家長として命令をした場合には、生命に係るほどの一大事、國家に關する程の大事件ならば格別、さもなければ腹の中では、是れは家長の命令だから遵奉するやうなもの、、少し間違つて居るやうである、併しながら、さまで大事でもないから服從する方が宜からうと云ふ位の意思の働きがなければなりませぬ、可笑いことがあつても、今は笑ふべきか笑ふ可からざるかを考へて、笑ふべき場合であつたら少々位苦痛があつても忍耐して笑ふ、自分に悲しいことがあるからと云つて場所柄をも辨へず涙を禁め得ぬやうな、薄弱の意思ではこれから先の世の中に立つて何が出來ますか「餓じい思ひをするのは、苦いから私は餓じい思をして見やう」「私は汚ない着物を着るのは嫌ひだから汚ない着物を着て見やう」「私は人に負るのが嫌ひだから負けて置かう」此意氣が甚だ大切な修養となるので、表面上は負けたやうに見えても腹の中の意思力が漸次に強くなつて往く、意思の強い徹へのある人間になりさへすれば此世の中のことは什麼事でも出來ます、二十世紀の世の中に立ち、西洋諸國と肩を並べ、或はそれを凌駕して進んで往かうと云ふには、只我ばかり強く押通さうとするのは、謬見である、私は此意味に於て、德川時代の理想も取つて修養の資とする價値が充分にあるものと信じ世の人々に警告をする次第であります。

（完）

育兒叢話（承前）

光藤夫人

○公平なる心の大切なる事（賞罰につきて）

今更こゝに申すまでもない事で、誰れでも其位の心掛のない人は御座いますまいが、しかし三四五六と多くの子供を持ちますと、色々の情實や何かにかられて、つい一方に偏することがありまして、公平の心を缺ぐ事があり易いもので御座います。格別婦人の感情的なる此の弊に陷り易いかと思はれます。同じ我がお腹を痛めました子でも、あの子は可愛らしいから余計に可愛とか、あれは弱い

から可愛とか、あれは普すぐれて利巧だから好きだとか、あの子はどうしたものか余り可愛くないとか、あの子はなぜか憎らしいとか、ちよとしたはずみに何となく可愛ひ憎いが出來たり、長子であるからとて可愛とか、其處に偏頗な心が起りまして、偏頗な心が起りましたならばモウ公平な賞罰は行はれません、公平な賞罰が行はれないと白紙のやうな子供の心にしみが出來ます、ねぢけます、ゆがみます、極幼少なものは口に何とも申しませんが、しかし其の觀察は鋭敏で御座います、其の母の偏頗な心を看破する丈の能力はあると見えまして、嫌惡の情を起します。或はいやに泣いたり、怒つたりしまして、眞實母をなつかしみ、戀ふ心を起さない樣で御座います。かゝる事柄は只一時でもよき感化は與へませんのに、常に母親がこんな心を持ちまして、子供に接しましたならば、其の兒の心は如何になりませうか、其惡影響を受けました將來は何うなりませうか、寒心に堪えないのであります。實に幼少なる子供を育てます母の責任の重い事、六ケしい事、とても學校などで大勢の子を一樣に教化するの比ではありません。

私も實際白狀しますれば、數人の子の中で末子が一等可愛く思はれます。之は一等少さいから弱者を助けるといふ同情心かも知れませんが、一つには他の四子は皆學校に出て居りまして、全然哺乳いたしませんでした、自然接するの時機も少なかつたので御座います。所が末子は學校を辭してから、專心家事に力を盡す事が出來る樣になりましたから哺乳も無論の事、一切萬事我が手で世話をいたしました結果であらうと存じます。どうしても兼好法師の去るもの日々に疎しの言葉のやうで、血を分けし愛子でも離れて居る時間が永い丈愛情の度が薄くはあるまいかと存じます。自然といへば自然で可愛い理由は御座いますが、常に私は恐れるので御座います。若之を他の公明正大な心を以て見た時に、末子に愛の傾く事はないかしら、他兒に惡感を起させる樣な事はあるまいかしらん、今では他の兒も皆末子は赤さんだからとて何とも思ひも言ひもいたしませんが、すこしも油斷ば出來ない事と存じて居ります。

公平な賞罰が行はれまして、はじめて數多くの子は、一樣に正しい道を踏む事が出來るのであります。正しい道を踏んで進み學びまして、始めて人間らしい人間となる事が出來るのであります。兄弟姉妹の和親も得られるのでありませう。延いては親を尊敬するの心も深いので御座いませう。兄弟姉妹打揃ふて親に安心もおさせ申す事が出來るので御座いませう。よく世上兄弟相爭ひ姉妹反目して一家の不祥を來す原因は、他にもありませうが、幼時より親の愛が平等でなく、或は兄を偏愛し、次子を疎んじ或は末子に愛を傾けて長子を疎んじた結果であるのもづいぶんある事と存じます。ア、自ら我身に及をあて、我が身を害し、家名を傷け、子孫を衰滅せしむるものといふも、過言であるまいと信じます。

それから又一つよく世間の母御の、子供を叱られるのを見ますのに惡い事をするとすぐ叱られる、謂以賞罰が餘りに無雜作であると思ひます。今少し子供の心理狀態に注意して、賞罰を施して欲しいと思ふので御座います。アノ子は襖を破つた何なせだらう。アノ子はインキをこぼしたなせだらう。アノ子は少さな子をいぢめた何故だらう。アノ子は寢小便をたれた何故だらう。常に此何故であらうの疑問を抱いて處置をしましたならば、公平に近い賞罰が出來易いと思ひます。何故なれば此何故であらうとの疑問を抱いて居りますれば、自然と解決が出來ます。身體がわるいからしつこをたれながした。彼れは仕事を仕度いと思ふてもする仕事がない、そこにあつたインキをこぼす、これ彼れの働であります。適當な玩具を與へねばならぬ、種々そこに解決がつくのであります、矢鱈叱るといふ弊は除かれませう。そして公平に近い賞罰が行はれませう。

○某男爵夫人の育兒談

學者として一世の名譽人望を双肩に荷ひ給へる、某男爵夫人を小石川竹早町の御邸に御訪ねいたしました。案内せらるゝまゝに、丁寧にならべらるゝ、洋書の架を兩側に眺めながら、玄關を奥に入り、廣い應接の室に丸いテーブルを中央に十脚ばかりならべてある椅子の末席に腰を下しました。

老女と思はるゝ人の、お茶菓子を運べる間に十八九の小間使は火を火鉢に入れ、一言二言言葉を交す中、夫人は茶縞お召の柄よき二枚襲に、黒縮緬の羽織を着流され、しとやかにしかも愛想よく私の連れました八歳の女兒ににこやかに御愛想をなさいました。

夫人の御言葉により御嬢様が御出でになりまして宅の少女を奥に連れ行き、共に遊ばして下さいました。

時候の御あいさつから申し上げますと、夫人は少しも隔てなく種々御談し下さいましたが、中頃から私の目ざす育兒の方に談を向けました。

お子様はお幾人で御座いますかと申し上げましたらば、夫人は丁度八人御座います、實は四人失ひまして殘りが八人で御座いますが、私はまたどうしたものか、お産が妙で人様より違ふので御座いますとの事で御座いますから、それは又どうして御座いましうかと伺ひましたらで夫人はいつも私のお産の時産婆が間に合つた事はありません、いつでも産氣づいたと氣がついてモー十分も經たぬ中に生れ落ちてしまひます、いつぞやも何だか變だから一寸便所にいつて來ようと存じて參りますと、モー歸る間もなく生れてしまいまして、産婆は勿論何の用意もないので大騒ぎ、下女にお湯を沸かさせるやら、書生に産婆を迎へさせるやら、モー〳〵目の廻る様に騒ぎました事が御座いましたが、主人もそれから大層心配しまして早く用意をしておけと申しますから、其の後は大抵一月位前から産室を用意しまして待つといふ風で、四五十日も産室を用意してある事が御座いますとの御談に私も餘り見た事も聞いた事もないので成程お輕くつて宜しい様なものゝ、危險な様にも思はれますし、全く破格で御座いますねと、申上げますと、夫人はヌルクなりかけし珈琲に口をうるほはせられ、全く破格で御座いませう、それで産後の肥立は至極よろしく、尤も養生をよくいたしますが、モー産後からすぐ様私の乳を與へまして、ドノ子にもまだ牛乳乳母の乳を用ゐた事は御座いません。自然子供は私の所にばかり居りまして、おしめの世話まで餘り人手を借りませんでした。

それに主人も子供の世話はよくいたしてくれまして、遊ぶにも共に遊びますから子供達が皆お小言の多い、私よりか却て父親を慕ひまして、大層なつきました。

主人の子供に對する育て方の方針とでも申す樣な事は、只モー大抵な事は大目に見まして、小八ケましく申しません、少々惡戲をしても、少しも小言を申しません、年中大方子供を叱るといふ事はないので御座いますが、只嘘をつくはよくないと申して、之ればかりは大嫌ひで、嚴重で御座います。すべての惡事は、大抵はこの嘘といふ一點から湧き出ると申しまして非常に恐れて居ります。

老女はヌルクなりし茶を入れかへました。私も子供を育てる事のいとゞ六ケしい事を申し上げますと、夫人は私共も長女から三人まではモードーヤラ心配も減りかけましたが、まだ五人の幼少なのが御座いまして、少しも心の休まる事は御座いません、マー大きな子はよく勉强してくれますも宜しいが、餘り勉强が度を過ぎて身體に障りても困ると存じますから、試驗が來たからとて夜遲くまで勉强させる樣な事はいたしません。何にせよこれからの世の中では生存競爭が次第に激烈になる事で御座いませうから、身體の健康といふ事が大事で御座います。だから幼少な時分から餘程注意いたさないと、といと謙遜に述べらるゝお言葉の中に凛として動かすことの出來ない眞理の含まれて居るのを見出しまして、成程男爵の今日の榮達お子樣が人並すぐれて賢く成績のよろしいのは、アー此の賢母の隱れたる恩惠による事多きを知りまして、いとゞ崇敬の念の高くなるのを覺えました。

眞率にして、一點虛飾なき。意味深長にして言葉少ななる夫人のお談に、つい長居いたして其の失禮を詫びつゝ辭して歸途につきました。

○一人子の敎養法

兄弟姉妹が澤山あるが幸福か、一人子が幸福であるか、今俄に斷言は出來兼ねますが、一人子は數多い子供を敎育するより、餘程氣をつけなければなるまいかと存じます。

兄弟姉妹の多い中では無論、母親が感化の中心で

はありますが、それでも長男とか長女とかのする事を、弟妹は皆よく見て居りまして、よかれあしかれ、其の眞似をする事が多いのであります。ダカラ長子によい習慣をつけておきますれば、其の他の子は大抵敎へないでも其の習慣を受けつぎます。

それならば子供は長子さへよく氣をつけて敎養しておきますれば、其の他は放任しておいても、よくなるかと申しますのに、必ずしもそうではありません、或は長子は大層よくつても弟妹は餘りよくないといふのも澤山あります、或は長子は餘りよくなくつても弟妹は大層よくなるといふのもづいぶんあります。しかし之等は或は他に種々の原因がありまして、いろいろ變るのでありませうが、一つは生れながらにして備ふる天性とでもいふべきものではないかと思ひます。此の天性善か惡か大に學說のある所で御座いませうが私は學者ではありませんから、未だ深く立ち入つて研究した事は御座いませんが、極普通の所見を以てしますれば、どうも人は皆生れながらにして夫れ夫れ具備する點が違ふのではないかと思ひます。或は母親の胎内にある時の感化、或は兩親の遺傳、或は祖先よりの遺傳とかゞ此の天性の遠因となるので御座いませう。

兎に角同じ父親母親の血を受て生れ出でし數人の子が、又同じ親に育てられて、しかも五人は五種、皆同じ樣なのは御座いません、或は大變に反對の性情のあらはれるのも御座います、之れは或は四周の境遇にもよりませうが、其の大要は天性によるのではありますまいか、大に世の識者の高敎を仰ぎたいと思ふ點で御座います。

右の樣なわけで、五人は五種でも、同じ母の膝下に養育を受けます兒は、大體皆長子の風を眞似る事が大變なもので御座いますから、どうしても、重子によい風儀を作りおく事が肝要で御座います、若し長子の生れし時一人子の時だとて、我儘にしておきましたならば、大變に困るので御座います、なぜならば、アレは長子だから少々我儘でもよろしいが、二子からは嚴重にしつけなければ困ると存じても、中々骨折損のくたびれ設け位のもので、

好結果を得る事は六ケしいのであります。ダカラ數人若しくは十數人の子女ある家庭では先づ其の長子からよく氣をつけて教養しておきますれば、其の他の子は餘程仕易いので御座います。

所が一人子となりますと、どうもそうは行きません、無論手は行屆いて、万事に注意は出來ますから、よく氣をつけさへしますれば、立派な人間に育て上げる事は六ケしくない樣に思はれますが、事の實際はそう參りません。

私がかつて學校で受持ちました、一組の生徒の中に三人ばかりの一人孃が御座いました。有福なるにまかせて、美衣を飾らせ、美食に飽かせてあつた樣で御座いますが、ドーモ我儘な事、クラス中の燒點となつて居りました。そしていつでも三人衆多の中より離れて、少さい組を作り、何となく大勢の中すぐれたものを、疾視する風のあらはる丶事が御座いまして、手コズツタ場合も一度や二度では御座いませんが、大抵は我儘から起るの擧動で御座いました。

餘程親がしつかりとして教養しないと、一人子は必ず此の我儘に陷り易い境遇であると存じます、なぜならば大勢の子供でありますと、一つの菓子も自ら思ふ存分頂く事も出來ないで、母親の分配なさる通りに、或は三つ或は五つに分ちて頂く事もあります。最も好な果物でも自ら思ふ丈頂く事は出來ないで、皆平等に分たれるので、子供は自然に我儘を抑へ、我慢をするといふ風が出來ます。或は時々は一人子ならばアレモコレモ皆私一人のものになるのにと一人子を羨む樣な下劣な心を起す事があるかも知れませぬが、其の時にはよく悲觀させないで兄弟多き幸福も悟らせるのであります。之れがやがて子供が學校にいつて多くの友達と仲よく遊ぶ豫備なのであります。即ち家庭は學校の豫備、學校は他日社會に出る用意と見て差支ないので御座いませう。

一人子はどうも餘りに我慢するといふ境涯が少ない爲めに、自然に忍耐力に乏しく、其の結果は怒り易く、意久地なしになり易いではなからうかと思はれます。ダカラ一人子を持たる丶母樣はよくこ丶に氣をつけて、我子の我儘を增長さす樣な事

は除き去り、成丈公平に取扱はれる事が肝要で御座います。

一人子は又身體の健康狀態を憂ふるの餘りに、思ふ樣に斷乎とした處置の出來ない場合がづいぶんある事と存じます。前申述べました三人の中の一人娘が、成績劣等でいつもいつも困り切りますので、保護者を呼び出して注意を與へますと、母親はモー私の言葉の終らぬ前から、兩眼に涙を浮べて、學校の板の間にヒタと座し、まことに私は子を澤山持ちましたが、皆死亡しまして、モー彼の娘ばかりなのでとあとは言ふ事が出來ないのであります。私も只やさしく慰めていたはり、少しづつでも進む樣にと告げる外彼の母は聞く勇氣はないのであります。

之を思ひますれば、其の健康狀態が餘程教育上の害となるのは瞭然で御座いますが、此の例の樣なのばかりではなく只建康な子でも、親の身としては常に此の弱點がある事と信じます。ダカラ此の點からいひますれば、一人子はマー不幸と申さなければなりません。

しかし體格さへ健全でありますれば、万一を杞憂する念は絶えますまいが、思ひ切つて我儘に陷らぬ樣工夫して教化する事が出來るのであります。

逝けるナイチンゲール孃

記者

今より九十年前即ち千八百二十年五月十二日富裕なる一英國紳士が夫人と共に大陸を漫遊して伊太利のフロレンスに到りける時夫人は月滿ちて一女子を生みぬ、依りて地名に因みてフロレンス、ナイチンゲールと名づけたり。

ナイチンゲール孃は女子として周到なる教育を受け殊に數學、語學に長ぜりと云ふ。孃は幼より慈愛の心深く曾つて一犬の跛を引きて歩むを見測隱の情に絶へず懇ろにいたはり愛撫せしと云ふ。孃は裕かなる家庭にありて何事も意の如くなるにも拘らず自ら進んで世の傷病者の友たらむ事を期しぬ。一千八百四十四年孃は資を齎して大陸に遊